

本州では絶滅寸前の希少種

箱石海岸のトウテイラン

(京都府京丹後市久美浜町)

トウテイランはラン科ではなくゴマノハグサ科の植物である。花の色が、洞庭湖の水の色にも比する程美しいという意味で付けられた名前で、和名は洞庭藍。「藍」は、碧紫色の花の色からきている。写真や印刷ではなかなか表現しにくい色をしていて、写真家を悩ます花である。

好まれて、園芸種として普及しているので、花壇等で見かけられた方も多いと思う。一見、地中海原産の植物のような雰囲気を持っている。この花が、日本海側の限られた地域にしか咲かない花と知ると、不思議な気がする。京都府の日本海側に少しあり、島根県の隠岐では大群生地がある。

トウテイランは実は意外に柔らかい植物で、強風吹きすぎ海岸に生育するとは考えられない植物。砂浜と丘陵地の境、背の低い笹等に囲まれるようにして生延びている。そのため、上部の背の高い草地にはない。限られた生育環境が求められるようだ。箱石海岸でも、こうした環境は少なく、一部でしか観察できない貴重種となっている。

花は8月の真夏に、花穂の下から順に咲き続け、9月中旬までのかなり長い期間咲き続ける。

2019年9月7日、ピンポイントでの生育地が判明しないまま、箱石海岸を訪れる事となった。天気予報は曇りであったが、実際は快晴。撮影には最悪の天気。あらかじめ予想した海岸にある駐車場から海岸に出ると、意外に簡単にトウテイランが出現した。しかし、なかなか絵になる光景がない。炎天下探す事一時間。ようやく二株の見事なトウテイランを見つけた。しかし、四時間程待つが、雲は現れなかった。この日の撮影は諦め宿へと向かった。そして、翌早朝、西空が茜色に染まる頃の風景である。この日も快晴で、撮影後すぐに朝日が照り、撮影不能となつた。宿を立つのがほんの少し遅れていたらと思うと、花の撮影の難しさを改めて思った次第だ。



見つけた巨大株。花穂の下から咲くので、花は終わりかけ。